

「国語総合」の指導と評価の工夫

# 前編

P 1 ～ P23

# 後編

P25 ～ P75

\*P24 は、肖像権保護のため割愛させていただきます。

国語実践の会ーフロム T

目 次

ともに学びともに進む仲間	文部科学省初等中等教育局視学官	田中 孝一	…… 1
はじめに	都立城東高等学校	高井 秀実	…… 2
<b>実践編</b>			
<b>年間の指導と評価の計画</b>			
作成の手順	都立千早高等学校	佐藤 和彦	…… 4
「年間の指導と評価の計画」表			…… 5
<b>単元の指導と評価の事例</b>			
凡例	都立調布南高等学校	尾 崎 肇	…… 1 1
<b>A 話すこと・聞くこと</b>			
「インタビューをする」	都立小山台高等学校	雨海 博英	
	都立玉川高等学校	高橋 雅子	
	都立三宅高等学校	鈴木 民子	…… 1 3
<b>B 書くこと</b>			
「意見文を書く」	都立清瀬東高等学校	堀川真理子	
	都立富士高等学校	小泉 清香	…… 2 5
<b>C 読むこと</b>			
「俳句・川柳を読む」	都立拝島高等学校	古宮才由里	…… 3 2
「単価・和歌を読む」	都立町田高等学校	松原 志保	…… 4 5
『詩』を読む」	都立千早高等学校	廣 瀬 愛	…… 5 6
評価の評定への総括		佐藤 和彦	…… 6 9
これまでの活動について		高井 秀実	…… 7 3
あとがき	都立足立工業高等学校	高山 実佐	…… 7 5
会員名簿			

今回の国語科の教育課程の特徴は、次の点に要約されます。

- 伝え合う力の育成を中核としていること。
- 初めて選択必修とし、「国語表現Ⅰ」又は「国語総合」を必修としたこと。
- 領域構成を、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」と改め、それぞれに言語活動例を示して、それらを活用した授業を展開するよう求められていること。
- 評価の改善を図り、指導と評価の一体化を目指していること。

このうち、評価の改善については、従前の高等学校に加えて、今回、小・中学校までも評定が目標に準拠した評価となったことと関連して、高校においてその現状の点検、改善が緊急の課題となっています。

このような教育課程実施上の課題に即応して、国語科の教育課程と授業の改善に取り組んだのが、東京都立高等学校教員の有志による「国語実践の会－フロム T」です。

「国語実践の会－フロム T」は、この2年間近くの研究・実践の成果を、今回の全国連第37回研究大会東京大会において報告、提案されます。その柱は次のようなことです。

- 必修科目「国語総合」の年間の指導と評価の計画を作成していること。
- この年間の指導と評価の計画では、学習指導要領に示された目標、内容、言語活動例、指導時数の目安等を踏まえて単元を構成し、さらに、それらが、言語能力の育成という立場に立って、領域・内容等からみて有機的に積み上げられていくように互いの関連性に配慮して作成してあること。
- 3領域すべてにおいて、実践のための事例を提案していること。それらは、年間の指導と評価の計画の中に位置付けてあり、そのことにより、言語能力の段階的、系統的な育成という視点を確保していること。
- 指導と評価の一体化を目指して、指導と評価の計画に基づき、目標に準拠した評価を展開する授業を提案していること。

このような提案は、新教育課程2年目の全国の高校のいずれの国語科にとっても、自分の学校での応用の可能性の高さという意味からもきわめて貴重なものです。

「国語実践の会－フロム T」は、都立高校の国語教師の自発的な集まりです。国語の授業をどのように改善し、生徒にどのように国語の力を付けるかという一点を目指して、「国語総合」の年間の指導と評価の計画を作成し、それを踏まえて、それぞれの勤務校の生徒たちの実態を踏まえつつ議論を重ねながら、各メンバーが提案事例を構想したり授業を展開したりしました。このように、一つ一つの事例は、個人の取組をあくまでも重視しながらもメンバーの議論を通して作り上げていったものです。

今、メンバーの皆さんは、ともに学びともに歩む仲間がいたからこそ、この2年間の取組であったという深い感慨の中にいらっしゃるのではないのでしょうか。ともに学びともに進む仲間づくり・・・「フロム T」のこのような取組は、17年間続く鹿児島をはじめ、沖縄、佐賀、石川、北海道などの地域でも行われています。「フロム T」に触発され、全国各地で、教師が互いに育て合う、このような取組が広がるよう心から期待します。

## はじめに

### 1 会の概要

「国語実践の会 — フロムT」が発足したのは平成 14 年秋に開催された全国連島根大会の後である。東京都の研究活動の活性化・授業改善を目的に、有志が手弁当による自主勉強会を立ち上げたのが12月13日のことであった。その際に会の性格・方向性について文部科学省初等中等教育局視学官（当時教科調査官）田中孝一先生からさまざまなアドバイスをいただいた。それは、

- ① 研究テーマは提案性のあるものとする
- ② 活動を継続する
- ③ 生徒の国語力をつけると同時に教師自身の授業改善を図る
- ④ グループ研究とすることによって自己の実践をより深いものにする
- ⑤ 東京から発信する（＝フロムT） というものである。

### 2 研究テーマ

当面の目標を全国連東京大会での発表に置き、研究テーマを

国語総合の指導と評価の工夫 — 評価で授業を変えよう —

として研究会活動をスタートさせた。具体的には

- 評価規準・評価方法を取り入れた「国語総合」の「年間の指導と評価計画」表の作成
- 各領域ごとの単元の指導と評価の事例の計画、及び授業実践を行うことである。

テーマ設定のねらいは、国語科として育成すべき言語能力を具体的な言語活動を通して確実に生徒に身に付けさせることにある。まず、研究テーマの中の「指導と評価の工夫」とは、新学習指導要領が目指す確かな学力を、実際の授業の中でいかに身に付けさせていくかという工夫であり、そのためには、生徒の学力や学習状況を、常にきめ細かく把握することで学習指導の改善に役立てていくことが必要であると考え。それがサブテーマの「評価で授業を変えよう」という方向性であり、我々の研究の出発点でもある。

確かな学力とは、周知のとおり、「知識・理解」だけではなく、思考力・表現力・問題解決能力、さらには学び方や学ぶ意欲までも含めた幅広い学力、つまりは「生きる力の育成をめざす」というものである。この学力観に沿った国語科教育を実現させ、生徒に学力を着実に身に付けさせるためには、生徒の学習の実現状況を的確に評価し、それを指導の改善に役立てることが必要になる。それが指導と評価の一体化であり、指導に生かすための評価である。そのためには目評に準拠した評価が必要になり、さらには、生徒のよさや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立てるための個人内評価についても充実させる必要がある。このような評価の工夫と改善を実現させることで、個に応じたきめ細かな指導や、学習内容の改善も可能になるものと考え。

また、評価を重視した実践を研究するにあたって特に以下の点に留意した。

- ① 生徒の学習の実現状況をペーパーテスト以外の面からも幅広く、かつ適切に評価する
- ② 指導に生かすための評価を充実させることで指導と評価の一体化を図る
- ③ 指導者にとって負担にならない評価にする
- ④ これまでの評価の実践の成果を可能な限り活用する
- ⑤ 生徒や保護者にも理解しやすい評価にする

①については「読む能力」や「知識・理解」のみに偏重するという従来の評価からの脱却を図るということである。以下、②は学習の結果に対してのみ評価を行うのではなく、

学習の過程についても評価を行うということ、さらには評価をその単元のみにとどまらず、後の学習活動に生きるものにするということ、③は日常の指導の中で行えるものにするということ、④は我々一人ひとりの実践や経験を共有し合うことで、よりよい評価の実現を目指すということ、⑤は評価を行う側だけではなく、受ける側にとってもわかりやすいものにすることでより一層妥当性と信頼性のある評価を目指す、ということである。本会では、評価とは本来競争をさばいたり、順位付けしたりするのではなく、指導の改善に生かすためのものであるという視点を持つことが何よりも重要であると考えている。

「年間の指導と評価の計画」及び「単元の指導と評価の事例」の具体的な提案については次ページ以降を御覧いただきたい。

(高井 秀実)



「年間の指導と評価の計画」の作成とその手順

1 年間指導計画の作成の基本的な考え方

各単元がそれぞれ関連を持たず、バラバラに配置されていたのでは、指導に生きる評価（指導と評価の一体化）を目指す学習活動は実現しない。そこで、まず必要となるのが、年間を通して各単元の位置付けに配慮した指導計画の作成である。つまり、生徒に身に付けさせたい言語能力である学習指導要領の指導事項を考慮しながら、意図的かつ計画的にそれぞれの単元を配置するかたちでの、「年間の指導と評価」の作成である。ここでは、本会が作成した「国語総合」の「年間の指導と評価の計画」（別頁参照）の作成に際しての基本的な考え方や手順について述べる。

なお、指導に生きる評価（指導と評価の一体化）を目指す学習活動を具現化させるためには、教材ではなく、生徒に身に付けさせたい言語能力を最大限重視するという考え方を、「年間の指導と評価の計画」を作成する最初の段階から持ち続けることが何よりも必要である。その考え方を明確に示したものが、本会が作成した「国語総合」の「年間の指導と評価の計画」のフレームでもある。

2 「年間の指導と評価の計画」の作成の手順

(1) 単元の設定

年間指導計画作成するとき最初に行うことは、科目の目標・学習指導要領の内容（指導事項）に留意しながら年間を見通した単元を設定することである。指導事項に留意することは、各指導事項を調和的に取り上げて配置するという意味だが、学校や生徒の実態に応じて、必要であると判断した場合には、年間を通して一つの指導事項を重点的に繰り返し螺旋状に配置し指導することも可能になるものと考えられる。

(2) 単元目標の設定

年間を通して指導事項を配置した後、今度はそれぞれの指導事項に対応した目標を設けることになる。それが単元の目標である。具体的には、その単元で取り上げた学習指導要領の内容（指導事項）に関するものを一つ設定する。その言語能力に関連する「関心・意欲・態度」及び「知識・理解」をそれぞれ一つずつ設定し、原則として計三つの目標を作る。なお、「知識・理解」は、言語能力に関連する〔言語事項〕を踏まえたものである。

(3) 単元の評価規準と評価方法の設定

単元の目標を定めた後、その目標に即した評価規準を、「関心・意欲・態度」「言語能力」「知識・理解」のそれぞれの観点ごとに一つずつ作成する。いうまでもないが、評価規準とは質的な面を中心に目標の実現状況を見るためのものであり、学習者全員が実現すべき規準（「おおむね満足できると判断される」B規準）となるものである。その評価規準を用いて評価を行う際に、最も有効であると考えられる評価方法についても、評価規準と合わせて決定する。

(4) 配当時間の設定

単元の評価規準等を定めた後、単元の名称や、単元に要する配当時間を定める。なお、指導の重点化を具現化させるためには、単元の目標はもちろんのこと、配当時間についても十分に絞り込まれた、いわゆるコンパクトな単元も必要になるものと考えられる。

(5) 学習活動の設定

最後に、配当された時間を踏まえながら、単元の目標を実現するための学習活動や言語活動を組み立てていく。その結果をもとに、単元で使用する教材についても決定することとなる。つまり、年間指導計画の作成の最後の段階に至って、初めて教科書にある教材を学習する順番について決定するのである。

(佐藤 和彦)

「国語総合」年間の指導と評価の計画（フロムT版）

【科目の目標】 国語を適切に表現し理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心豊かな心を持ち、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

学期	月	単元名	指導事項			単元の目標	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	学習活動(指導内容)	言語活動	教材等	他教科などとの関わり	時数
			A	B	C		関心・意欲・態度	書く能力	読む能力							
1	4	オリエンテーション(1)				①国語を尊重してその向上を図る態度を身に付ける工夫をする。(関心・意欲・態度)				①国語を適切に表現し理解する態度を身に付けようとしている。(関心・意欲・態度)	①行動の観察(関心・意欲・態度)	○国語総合の学習の目的を理解する。 ○年間の学習計画・評価方法・使用教材を確認する。 ○国語の学力の自己評価をし、1年間の学習に備える。		年間の学習計画・学力診断テスト	2	
		聞くことの大切さ	イ		ア	①聞くこととする積極的な態度を身に付ける。(関心・意欲・態度) ②情報を言葉で相手に的確に伝える。(話す・聞く能力) ③効果的な話し方を理解する。(知識・理解)				①必要なく聞き取り過ぎることを避ける。(関心・意欲・態度) ②情報を聞き取りやすく聞き手に伝える。(話す・聞く能力) ③目的や場面にふさわしい言葉遣いを身に付けている。(知識・理解)	①記述(メモ)の点検(関心・意欲・態度) ②記述(評価表)の分析(話す・聞く能力) ③行動の観察(知識・理解)	聞き取り 説明		総合的な学習の時間	3	
		【A01】読むことのおもしろさ			エ	①読むことを楽しむ態度を身に付ける。(関心・意欲・態度) ②文章を読むことで自分なりの考えを持つ。(読む能力)				①読むことに対する意欲を高めようとしている。(関心・意欲・態度) ②文章を読んで考え方を広げたり深めたりしようとしている。(読む能力)	①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(ワークシート)の分析(読む能力)	○小説を音読する。 ○小説を読んだ感想を話し合う。 ○話し合いの成果をまとめる。	話し合い	小説	4	
		【C01】ことばの役割を考える			オ	①ことばを意識しながら文章を読む。(関心・意欲・態度) ②書き手の考えを過不足なくとらえる。(読む能力) ③言語の役割について理解する。(知識・理解)				①ことばに対する自分なりのイメージを持つようとしている。(関心・意欲・態度) ②語句や表現に注意しながら随想を語っている。(読む能力) ③言語の機能についての理解を深めている。(知識・理解)	①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(ワークシート)の分析(読む能力) ③記述(ワークシート)の点検(知識・理解)	○随想を音読する。 ○辞書を使用しながら随想を読む。 ○「読み」の最小単位としての「ことば」を意識する。		随想	4	
	5	【C02】古典の楽しさ			ウ	①古典を学習する意義を理解する。(関心・意欲・態度) ②文章を表現に即して読む。(読む能力) ③文語のきまりについて理解する。(知識・理解)				①古語辞典や漢和辞典を活用しながら古典作品を読もうとしている。(関心・意欲・態度) ②語句の意味をつかみながら読んでいる。(読む能力) ③歴史的仮名遣いについての理解を深めている。	①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(ノート)の分析(読む能力) ③記述(小テスト)の分析(知識・理解)	○文語や訓読のきまりを学ぶ。 ○古文や漢文を音読し、独特の韻律をつかむ。 ○古語辞典と漢和辞典を使用し、語句の意味や用法を理解する。		古文 漢文	8	

【C03】 手紙文を書く	ア	オ	○	○	○	○	○	○	○	①相手や目的を考えたが手紙を書くこととしている。(関心・意欲・態度) ②相手や目的にふさわしい語句を選択している。(書く能力) ③伝達のための言語の使い方を身に付けている。(知識・理解)	①行動の観察(関心・意欲・態度) ②記述(手紙)の分析(書く能力) ③記述(手紙)の点検(知識・理解)	手紙	総合的な学習の時間	3
【B01】 伝えるための話し方	ア	ア	○	○	○	○	○	○	○	①聞き手に分かりやすく伝えようとしている。(関心・意欲・態度) ②話し手の理解や納得が得られる話をしている。(話す・聞く能力) ③目的や場にあった言葉遣いを身に付けている。(知識・理解)	スピーチ	総合的な学習の時間	3	
【A02】 定期考査(1)			○	○	○	○	○	○	○	①記述(ペーパーテスト)の分析	ペーパーテスト		2	
【C04】 表現に即して読む	ア	イ	○	○	○	○	○	○	○	①書き手の考えなどを的確に把握しようとしている。(関心・意欲・態度) ②文脈を考えながら論理的な文章を読む。(読む能力) ③文章の構成を理解する。(知識・理解)	要約文		8	
【C04】 表現に即して読む	ウ	エ	○	○	○	○	○	○	○	①言葉の美しさを発見しそれを感じずる態度を身に付けようとしている。(関心・意欲・態度) ②情景や人物の心情を読み味わっている。(読む能力) ③文語文法についての理解を深めている。(知識・理解)	古文漢文		8	
【C05】 通知文を書く	ア	ア	○	○	○	○	○	○	○	①相手や目的にふさわしい題材を選択しながら書こうとしている。(関心・意欲・態度) ②論点を整理して配列を考えながら書いている。(書く能力) ③相手や目的に応じた語句の使い	通知文	特別活動・総合的な学習の時間	3	

【B02】 定期考査(2)			○	○	○	○	○	○	○	③相手や目的に付けている。(知識・理解)	方を身に付けている。(知識・理解)	価値を行う。	ペーパーテスト	2
様々な本を読む			○	○	○	○	○	○	○	①多くの書物の中から必要なものを選ぼうとしている。(関心・意欲・態度)	○学校図書館の利用方法を学ぶ。 ○自分の読みたい本を選んで読む。	学校図書館	2	
【C06】 本の紹介文を書く	ウ	イ	○	○	○	○	○	○	○	①多くの文章に接することで、様々な表現に触れようとしている。(関心・意欲・態度) ②読み手を意識した用語や引例などを取り入れながら書いている。(書く能力) ③正しく理解し使いこなせる言葉の数を増やしている。(知識・理解)	紹介文	学校図書館	3	
【B03】 インタビューをする	ア	ア	○	○	○	○	○	○	○	①他者に関心をもち、身の回りの事柄から問題を見つけてようとしている。(関心・意欲・態度) ②相手から話を聞き出すために、質問内容や順序を工夫している。(話す・聞く能力) ③基本的なインタビューの仕方やマナーを理解している。(知識・理解)	インタビュー	総合的な学習の時間	3	
【A03】 報告文を書く	イ	イ	○	○	○	○	○	○	○	①文脈の中でのニュアンスなどに注意しながら書く。(関心・意欲・態度) ②相手に伝えるために客観的な文章を書く。(書く能力) ③相手や目的に応じた題材を選定することを理解する。(知識・理解)	報告文	学校図書館・総合的な学習の時間	5	
【B04】 人物に注目して読む	ウ	エ	○	○	○	○	○	○	○	①読み比べを通して考えを広げようとしている。(関心・意欲・態度) ②人物のものの考え方や生き方をとらえながら文章を読んでいる。(読む能力) ③返り点や送り仮名についての理解を深めている。(知識・理解)	読み比べ	小説漢文	8	





単元の指導と評価の事例（A 話すこと・聞くこと）

学習活動	指導の留意点（◇）と 具体の評価規準（◆）	評価の実際
前項「5 指導と評価の計画」の「学習活動」に対応させている。	「◆具体の評価規準」は「B＝おおむね満足できると判断できる状況」のよりどころとなるものについて記述した。	「5 指導と評価の計画」の「評価方法」をさらに具体化させた。

【Aと判断できる生徒の具体例】  
「◆具体の評価規準」に基づき「A＝十分満足できると判断される状況」を具体化した。

【Cの生徒への手だての例】  
冒頭に評価の観点を示し、「◆具体の評価規準」に基づき「C＝努力を要すると判断される状況」を具体化した。さらに追指導の例を示した。

（【第2時】以下略）

7 単元全体の評価

（1）Cと評価した生徒への単元終了後の指導

→この単元の終了時までではなく、履修終了まで継続的に追指導をしていく。

関心・意欲・態度	
話す・聞く／書く ／読む能力	
知識・理解	

（2）学習指導の成果

→指導による生徒の変容の、期待される姿について述べた。

（3）改善の視点

→指導に対する今後の課題を述べた。「評価と指導の一体化」を進める上で、「評価を指導に生かす」ための視点が示されている。

（尾崎 肇）

1 単元名

インタビューをする（3時間）

2 本単元のねらいと年間指導計画上の位置付け

本単元では「単に話を聞き取る」活動から、「主体的に話を聞き出す」活動へと発展させていき、受動的に聞き取るだけではなく、主体的にコミュニケーションをとる力を身に付ける。

年間指導計画の中では、一学期の基礎的な聞き取りやスピーチを受けるとともに、二・三学期の話合いや討論につながる力を育成させる単元として位置付けている。また、ここでの内容をもとに次の単元のB領域の「報告文を書く」につなげていく。

3 単元の目標

- ① 他者や身の回りの事柄に関心を持ってインタビューをする。（関心・意欲・態度）
- ② 相手から話を聞き出せるよう、的確に質問をする。（話す・聞く能力）
- ③ インタビューの仕方やマナーについて理解する。（知識・理解）

4 単元の評価規準

- ① 他者に関心を持ち、身の回りの事柄から問題を見付けようとしている。（関心・意欲・態度）
- ② 相手から話を聞き出すために、質問内容や順序を工夫している。（話す・聞く能力）
- ③ 基本的なインタビューの仕方やマナーを理解している。（知識・理解）

5 指導と評価の計画

時	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	○インタビューの仕方 やマナーについて確認する。 ○インタビューのために他者や身の回りの事柄に関心を持つ。	①（関心・意欲・態度）	インタビューカードの確認と行動の観察	○インタビューのマナーを確認する。*1 ○グループ分けをする。 ○授業者から提示された柱となる質問事項を、グループで効果的な順番に並び替える。 ○グループでそれぞれの柱となる質問事項の担当者を決める。 ○各自、担当の質問事項を深めるために、細かい質問事項を付箋に書き溜め、インタビューカードに貼っていく。
2	○インタビューの仕方 やマナーについて理解する。	③（知識・理解）	行動の観察	[インタビューをしている時の学習活動] ○インタビューカードに基づいて



			<p>対象者にインタビューをする。</p> <p>○インタビュー終了後、各自カードに回答を記入する。質問内容の付箋に質問した順番を付ける。</p> <p>○グループの他の人が質問をしている時も、その質疑応答の内容をインタビューカードに記入する。</p> <p>[インタビューを聞いている時の学習活動] インタビューの内容について相互評価表に記入する。</p>
3	○相手から話を引き出すために的確に質問する。	②(話す・聞く能力)	<p>インタビューカードと自己評価表の確認</p> <p>○1グループの録画ビデオをクラス全員で見る。</p> <p>○クラス全員で的確で効果的な話し方を考える。</p> <p>○問題点を意識しながら各自がインタビューカードを再構成する。(質問事項を書いた付箋を貼り替える。)</p> <p>○自己評価表に記入する。</p>

\*1 インタビューのマナーに関しては定期テストにおいても確認する。

## 6 各時間の評価と指導の実際

### 【第1時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
<p>○インタビューのマナーを確認する。</p> <p>○グループ分けをする。</p>	<p>◇マナーや効果的なインタビューのあり方についてはプリントで確認。(学習プリント①・②)</p> <p>◇インタビューのテーマは学校・生徒の実態に応じて提示する。</p> <p>◇グループ数に応じてテーマを二つから三つとする。</p>	<p>○本時ではマナーについては評価しない。第2時の観察と定期試験で、理解できているかを確認する。</p>

【Aと判断できる生徒の具体例】  
●「関心・意欲・態度」  
返答の内容まで予想して、効果的な質問をより多くあげている。

<p>○授業者から提示された柱となる質問事項を、グループで効果的な順番に並び替える。</p> <p>○グループでそれぞれの柱となる質問事項の担当者を決める。</p> <p>○各自、担当の質問事項を深めるために、細かい質問事項を付箋に書き溜め、インタビューカードに貼っていく。</p>	<p>る。*2</p> <p>◇柱となる質問事項はあらかじめ授業者が決めておく。</p> <p>◇インタビューカードは全員に配布する。(学習プリント③)</p> <p>◇活動が円滑に進むように机間指導をする。</p> <p>◆「積極的に話合いに参加しようとしている。」を判断のよりどころとする。</p> <p>◆「インタビューの目的に応じた効果的な質問を見付けようとしている。」を判断のよりどころとする。</p>	<p>○積極的に話し合いに参加しているか机間指導をして観察する。</p> <p>○インタビューの目的に応じた効果的な質問を見付けようとしているかインタビューカードで確認する。</p>
---	--	---

\*2 今回は二つのグループが同一テーマでインタビューし、どちらのグループがより深い情報を引き出せたかを競い合えるようにした。

### 【第2時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
<p>[インタビューをしている時の学習活動]</p> <p>○インタビューカードに基づいて対象者にインタビューをする。</p> <p>○インタビュー終了後、各自カードに回答を記入する。</p>	<p>◇インタビュー時間は1グループで5~10分程度とし、全グループが順番に行う。</p> <p>◇質問は全員がする。</p> <p>◇質問内容は流れに応じて効果的な質問を加えてよい。</p> <p>◆「第1時で確認したインタビューの仕方やマナー</p>	<p>○第1時で確認したインタビューの仕方やマナーについて、実践されているかどうか観察する。</p> <p>○この時間中の評価は、おおむね満足できる(B)かどうかを判断</p>

【Aと判断できる生徒の具体例】  
●「知識・理解」  
定期試験で高い理解の状況を示している。

質問内容の付箋に質問した順番を付ける。

- グループの他の人が質問をしている時も、その質疑応答の内容をインタビューカードに記入する。

[インタビューを聞いている時の学習活動]

- インタビューの内容について相互評価表に記入する。

について、実践されている。」を判断のよりどころとする。

◇インタビューを聞いている生徒たちは相互評価表の項目に基づいてインタビューを評価する。(学習プリント④)

◆相互評価表は、あくまで生徒の学習活動であり、この時間の評価とはしない。

することに重点を置く。

【Cの生徒への手だての例】

●「知識・理解」インタビューの仕方やマナーについて、実践できなかった生徒に対しては、第3時で改善や努力の視点を提示する。

を考える。

- 問題点を意識しながら各自がインタビューカードを再構成する。(質問事項を書いた付箋を貼り替える。)

- 自己評価表に記入する。

◇再構成したインタビューカードを見ながら自己評価表に記入する。(学習プリント⑤)

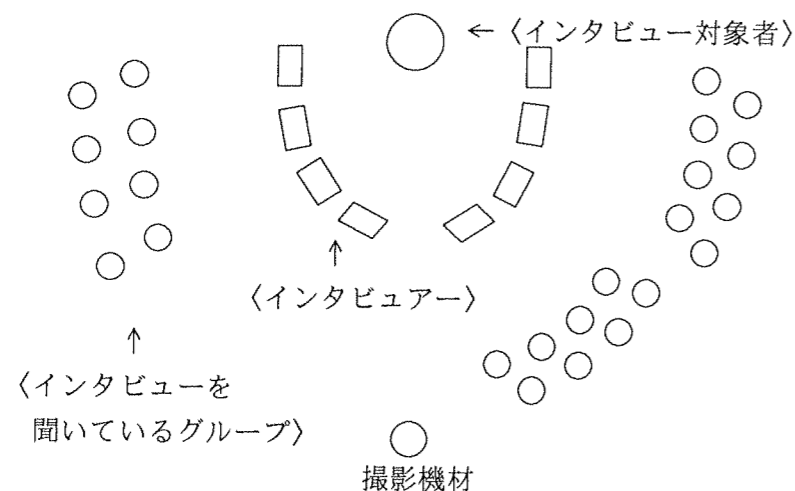
◆「相手から話を引き出すための的確な質問のあり方を知り、自分の改善点や努力点を意識できている。」を判断のよりどころとする。

○自分の改善点や努力点を発見して、的確に話を聞き出すための工夫をしたか、インタビューカードと自己評価表によって確認する。

努力点を意識している。

【Cの生徒への手だての例】

●「話す・聞く能力」質問事項を書いた付箋を貼り替えられなかったり、自己評価表に記入できない生徒には、考えの視点を提示する。



【第3時】

学習活動	指導(◇)と評価(◆)の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> <li>○1グループの録画ビデオをクラス全員で見る。</li> <li>○クラス全員で的確で効果的な話し方</li> </ul>	<p>◇相互評価が高かったグループの録画ビデオを見て、クラス全体で問題点を検討する。</p>	

【Aと判断できる生徒の具体例】

●「話す・聞く能力」自分のインタビューの状況を振り返って、より具体的に自分の改善点や

7 単元全体の評価

(1) Cと評価した生徒への今後の指導の例

関心・意欲・態度	一学期の学習内容の復習によって、言葉によるコミュニケーションの大切さを再度認識させる。
話す・聞く能力	この単元以降の学習活動でも、質問する際には内容や順序を工夫する必要があることを随時指導する。
知識・理解	インタビューの仕方やマナーについて必要な事項を再度説明する。

(2) 学習指導の成果

仲間内での会話と異なり、普段の生活ではあまり意識していなかった他人との言葉のやりとりが意外に難しいと感じたようだ。この学習活動を通して、「主体的に話を聞き出す」ためには、目的に応じた効果的な質問や順序立てが大切であることを意識するようになった。

(3) 改善の視点

インタビューされる対象者が、生徒の実態によってはうまく受け答えできないこともあるので、その場合は教員を対象者にした方が良いでしょう。また時間に余裕があれば、再度インタビューを行い、より高い学習効果を得られるようにする。

(雨海 博英・鈴木 民子・高橋 雅子)

【第一時】  
「インタビュー」 学習プリント③

軸となる質問事項	あいづち例	細かい質問事項(付せんを貼る)	入札・質問の回答
はじめの挨拶(班長) ・今から「 」先生をお迎えして、「 」班によるインタビューを始めたいと思います。 「 」先生、よろしくお願い致します。			
①「一年組の 」です。 まずはじめの質問は、 『〇〇先生の趣味』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は		
②次の質問に移ります。「一年組の 」です。二番目の質問は、 『〇〇先生の好きなスポーツ』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は	好きなスポーツは? →(やらない) 興味ない 好きなスポーツは? →(やらない) 興味ない スポーツの種類は? →(やらない) 興味ない 今でもそれをしてる? →(やらない) 興味ない 始めたきっかけは?	
③次の質問に移ります。「一年組の 」です。三番目の質問は、 『〇〇先生の夢』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は		
④次の質問に移ります。「一年組の 」です。四番目の質問は、 『〇〇先生が大切にしているもの』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は		
終わりの挨拶(班長) ・以上でインタビューを終わります。お忙しい中、ご協力頂きありがとうございました。			

インタビューをしよう

一年組番( )

一、今回のインタビューの形式

- ① 形態・・・一名に対し複数でインタビューする。(必ず全員がインタビューする。)
- ② 時間・・・グループにつき( )分
- ③ テーマ・・・〇〇高校の先生について、その人物像に迫る!

二、知っておこう・通常のインタビューの手順

- ① 事前に(アポイントメント)をとる。(方法 手紙・電話・FAX など)
- ② インタビューする。
- ③ (お礼)と(報告)をする。(方法 )

三、インタビューを成功させるための注意点

- ① ( ) (質問をする。)
- ② 相手からより多くの( )を引き出す。  
\* 大から小へ  
\* 「なるほどインタビュー」ではなく「つつこみインタビュー」を。  
③ 相手を( )にさせない。  
\* 具体的には  
( )をとる。  
\* あくまで話をときれさせないように気をつける。場合によってはインタビュー終了後にとる。

(原稿のサイズはA4)

「インタビューをしよう」学習プリント②

一年組番( )

【深みのない一問一答形式のインタビューの例】

- Q1: 習い事はしていますか?  
A: はい、ギターを習っています。
- Q2: 週にどれくらい通っていますか?  
A: 週に一日、火曜日です。
- Q3: 習い事をしてみてどうですか?  
A: 以前から興味があったものなので、楽しいです。
- Q4: 他にしてみたい習い事はありますか?  
A: テニスなどにも興味はありますね。

【一つのことについて深められたインタビューの例】

- Q1: 習い事はしていますか?  
A: はい、ギターを習っています。
- Q2: なるほど。それではいつ頃、何がきっかけでギターを習い始めることになったのですか?  
A: もともと音楽に興味があったのですが、中学一年の時にクラスの友人と共通の音楽の話で盛り上がり、それでは一緒にギターでコピーしよう、ということになったのがきっかけです。
- Q3: その友人の方と、音楽の趣味があったということですが、どのようなジャンルの音楽を弾いているのですか?  
A: 主にハードロック系です。
- Q4: それでは、ギターを習うだけでなく、これまでに発表する場面などはありましたか?  
A: そのきっかけとなった友人と他の数人でバンドを組み、先日ライブを行うことができました。とても楽しかったです。

(原稿のサイズはA4)

(導入省略)

Q 1 : 一番目の質問は「K先生の高校時代」についてです。私たちは高校一年生で、これから将来についていろいろ考えなければいけない時期なのですが、K先生は、高校生のときどんな夢を持っていたか教えて下さい。

A : 本を読んで、それを生かせる仕事に就ければいいなあと思っていました。

Q 2 : それが大学の文学部を選択するきっかけになったのですか？

A : そうですね。理数系が苦手、やはり本を読むのが好きだったからです。あと、それまでまとまっていたゆるな名作と言われる作品をきちんと読んでいなかったもので、そういうものを読み深め、研究してみたいなあと思ったからです。

Q 3 : なるほど。それで、大学は文学部に進まれたのですね。文学部と言ったらいろいろいることが学べると思うのですが、そこで自分が頑張ったなあ、興味が持てたなあということがあったら教えてください。

A : 数人しかいない文芸同好会で、小説を書いていました。その自分の作品が人から良い評価を受けると嬉しかったですね。

Q 4 : その作品の中で、今でも思い出に残っている作品はありますか？

A : ありますよ。

Q 5 : それはどういう作品ですか？

A : 簡単に言うと、その内容は…(省略)。それが一番気に入っています。

Q 6 : 一言で言うと、「出会い」をテーマとした作品なんですね。

A : 新しい書き方の雰囲気、周りの友人に好評を得て嬉しかったですね。

Q : ありがとうございます。私からの質問は以上です。

(導入省略)

Q 1 : 3番目の質問は「U先生の夢」についてです。U先生のこれから叶えたい夢は何ですか？

A : 将来、海外に行きたいです。

Q 2 : 例えばどこですか？

A : カナダやニュージーランドですね。

Q 3 : それでは、なぜそれらの国に行きたいと思っっているのですか？

A : それらの国でスキーなどしてみたいからです。日本でできても、雪質などが違うと思うので。Q 4 : なぜ、そのような夢を持ったのですか？

A : 私たちは世界の中で、日本という国しかあまり知らないですよ。私は新婚旅行でアメリカへ行ったときに、アメリカという一つの国の中に時差があることを知らなかったんです。海外をもっと見なきゃいけないなあ、日本だけにいやいや思っただけなんです。

Q 5 : 今までどこに行ったことがありますか？

A : ニューヨークとハワイですね。

Q 6 : アメリカばかりですが、アジアなどは行ってみたいとは思っていませんか？

A : アジアも行ってみたいです。中国という国にも興味がありますね。

Q : ありがとうございます。私からの質問は以上です。

(原稿のサイズはB4)

【第三時 再構成後】

「インタビュー」 学習プリント③

インタビューカード

一年組 番 ( )

軸となる質問事項	あいづち例	細かい質問事項 (付せんを貼る)	メモ・質問の回答
はじめの挨拶 (班長) ・今から「 」先生をお迎えして、「 」班によるインタビューを始めたいと思います。 「 」先生、よろしくお願い致します。			
①「一年組の 」です。 まずはじめの質問は、 『○○先生の趣味』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は		
② 次の質問に移ります。「一年組の 」です。二番目の質問は、 『○○先生の好きな○○』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は	①好きなスポーツは？ →(やっこいさ) ②今でもそれをしたいですか？ →(やっこいさ) ③始めたきっかけは？ 練習は毎日かしたら？ ④スポーツ友達はいませんか？ ⑤これから始めたいスポーツは？	
③ 次の質問に移ります。「一年組の 」です。三番目の質問は、 『○○先生の夢』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は		
④ 次の質問に移ります。「一年組の 」です。四番目の質問は、 『○○先生が大切にしているもの』 についてです。 (下の細かい質問から2〜3問↓) ・私からの質問は以上です。	(一問目の後に) ・それでは ・どうして ・なぜ ・でも ・今は		
終わりの挨拶 (班長) ・以上でインタビューを終わります。お忙しい中、ご協力頂きありがとうございました。			

(原稿のサイズはA3)

自己評価表（自分のグループを評価する）

一年 組 番

〔 班への評価 〕		〔 評価 〕 ◎ 該当する ○ や該当する △ 努力を要する
① インタビューのマナーを守れたか。 （相手を傷つける質問はしない・丁寧語・挨拶など）		
② 多くの質問を準備することができたか。 （インタビューカードに、多くの付せんを貼れたか）		
③ 相手の考えを引き出すのに効果的な順番で質問できたか。 （大まかな質問→細部へ）		
④ 時間を有効に使えたか。 （やり取りの「問」など）		
⑤ インタビューを通して、インタビュー対象者を良く知ることができたか。 （一問一答ではなく、一つの質問に対して深く）		
⑥ 感想・意見（良かった点・良くなかった点・改善方法など） 質問と質問との間があったので、付せんをもっと活用すれば良かったと思う。 対象者に対するマナーは守ることができた。		

（原版のサイズはA4）

自己評価表（自分のグループを評価する）

一年 組 番

〔 班への評価 〕		〔 評価 〕 ◎ 該当する ○ や該当する △ 努力を要する
① インタビューのマナーを守れたか。 （相手を傷つける質問はしない・丁寧語・挨拶など）		
② 多くの質問を準備することができたか。 （インタビューカードに、多くの付せんを貼れたか）		
③ 相手の考えを引き出すのに効果的な順番で質問できたか。 （大まかな質問→細部へ）		
④ 時間を有効に使えたか。 （やり取りの「問」など）		
⑤ インタビューを通して、インタビュー対象者を良く知ることができたか。 （一問一答ではなく、一つの質問に対して深く）		
⑥ 感想・意見（良かった点・良くなかった点・改善方法など） 相手の答えをYES・NOで想定して次の質問の準備をしていたので、本番ではスムーズにインタビューできた。準備の大切さがよく分かった。		

（原版のサイズはA4）

相互評価表（他のグループを評価する）

一年 組 番

〔 班への評価 〕		〔 評価 〕 ◎ 該当する ○ や該当する △ 努力を要する
① インタビューのマナーを守っていたか。 （相手を傷つける質問はしない・丁寧語・挨拶など）		
② 質問は分かりやすかったか。 （相手が答えやすい質問・答えやすい聞き方）		
③ 相手の考えを引き出すのに効果的な順番で質問できていたか。 （大まかな質問→細部へ）		
④ 時間を有効に使っていたか。 （やり取りの「問」など）		
⑤ インタビューを通して、インタビュー対象者を良く知ることができたか。 （一問一答ではなく、一つの質問に対して深く）		
⑥ 感想・意見（良かった点・良くなかった点・具体的なアドバイスなど） 質問を聞いているときにうなずきなどが少なかった。質問をほとんどしていたのは良かった。もう少し深い質問ができればなお良いと思う。		

（原版のサイズはA4）

相互評価表（他のグループを評価する）

一年 組 番

〔 班への評価 〕		〔 評価 〕 ◎ 該当する ○ や該当する △ 努力を要する
① インタビューのマナーを守っていたか。 （相手を傷つける質問はしない・丁寧語・挨拶など）		
② 質問は分かりやすかったか。 （相手が答えやすい質問・答えやすい聞き方）		
③ 相手の考えを引き出すのに効果的な順番で質問できていたか。 （大まかな質問→細部へ）		
④ 時間を有効に使っていたか。 （やり取りの「問」など）		
⑤ インタビューを通して、インタビュー対象者を良く知ることができたか。 （一問一答ではなく、一つの質問に対して深く）		
⑥ 感想・意見（良かった点・良くなかった点・具体的なアドバイスなど） 突っ込んで質問することがなかなかできていない。 他の班の人と同じ質問を繰り返してしまった人がいたのが残念だった。		

（原版のサイズはA4）